



■新潟大学ホームページ■

<http://www.niigata-u.ac.jp/>



新潟大学広報誌

新大広報

**Niigata University
Campus Magazine**



2005 夏号

編集・発行／新潟大学広報委員会・新潟大学学務部
印刷／第一印刷所

新潟大学広報誌

新大広報



**Niigata University
Campus Magazine**

2005年夏号

No.157

shindai NEWS

- キャリアセンター開設
- 全学教育機構開設
- 社会連携研究センター開設
- 入学センター開設

特集

インタビューに行こう

就職活動相談Q&A
保健管理便り

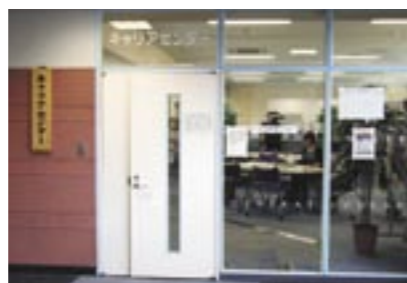
CAMPUS INFORMATION
黎明祭／新大祭

01 キャリアセンター開設

平成17年4月に従来の就職部を改編し、学生の進路全体を総合して支援することを目的に「キャリアセンター」として、専任教員も配置し、新しく設置されました。

新潟大学では、本学に入学した学生の皆さんが充実した学生生活を送り、自身の適性を見出し、将来を見据えた大学生活生活が送れるよう、応援します。

新潟大学の教育目標にも掲げているとおり、「広範に活躍する人材を育成し、地域社会や国際社会の発展に寄与すること。」に繋がられるよう、全学一丸となって取り組んでいます。学生の皆さんが、大学で得た知識を地域に還元する様願っております。



キャリアセンターには、進路選択に関連した参考書や就職情報検索用パソコン、企業ファイル、各種セミナービデオやOB・OG名簿等設置しています。

今、一般企業への就職希望の4年次生や大学院2年次生は、「内定」のピークも終盤となり、就職活動に終止符を打ち、学業に専念する者がある中、内定が出ても今なお、妥協せず、納得のいく決定に向けて頑張っている者など、悲喜こもももといったところです。

また、公務員を志望する学生は今、面接対策に明け暮れています。

一方、キャリアセンターには、「自分の適性が見えない。」「仕事にはどんな業種があるのか。」「就職活動っていつ始めるのか。」「みんな内定がもらえるのか。」「内定をもらったら何時、返事するのか。」

「例え、進学する人でも4年生の時に就職活動を経験した方が良いと聞いたが本当なのか。」

「公務員を志望している。不合格の場合、方向転換するつもりだが、その時期でも企業からの募集はあるのか」など、全学年にわたる学生が1日に平均約180人も訪れています。

そうです。一人で悩むことなく、先ず、キャリアセンターを大いに活用してください。スタッフ一同、学生の皆さんが利用してくれるのを待っています。

■連絡先／キャリアセンター TEL 025-262-6087



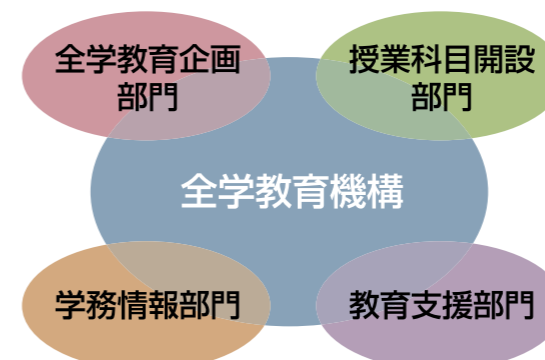
CAREER CENTER

02 全学教育機構開設

平成3年の大学設置基準の大綱化によって、教養教育は学部一貫教育の中に位置付けられることになり、カリキュラムも各大学の事情に併せて設計できるようになりました。本学においては、平成6年4月に教養部が廃止され、教養科目(全学共通科目)は全学出動体制のもとで実施されておりましたが、教養教育と専門教育との在り方を抜本的に組み換え、連続性、段階性、体系性が明確な一貫した教育プログラム主導の新しい学士課程教育(学部教育)を構築するため、平成17年4月に「全学教育機構」が開設されました。

新しい学士課程教育(学部教育)は、学士課程に関わる全授業科目に分野と水準がわかるコードを付す「ベンチマークシステム(分野・水準表示法)」の導入と総合大学として多岐にわたる学問分野の授業科目を分野横断的に統合したプログラムを提供し、認定条件を満たした学生には主専攻の学位とは別に認定証書を授与する「オナースプログラム(副専攻制度)」を核としており、「全学教育機構」はこれらシステム等の管理・運営と、各年度における授業科目の開設計画を、各学部の教育課程に基づき、各学部及び教育研究院と密接に連携しながら調整・決定する組織です。

全学教育機構は、全学教育企画部門、授業科目開設部門、学務情報部門及び教育支援部門の4つの部門により組織され、各部門における主な業務内容は次のとおりです。



全学教育企画部門

全学共通科目(教養科目)と専門科目の区分を廃止し、授業科目の開設を全学教育機構が全学統一的に行うこととし、学士課程に関わる全授業科目に分野と水準がわかるコードを付しその管理・運営を行います。(ベンチマークシステム《分野・水準表示法》)

また、総合大学として多岐にわたる学問分野の授業科目を分野横断的に統合したプログラムを作るなど、学生が複線型の体系的な学習を行うことができる制度の管理・運営を行います。(オナースプログラム《副専攻制度》)

授業科目開設部門

各学部から開設要請を受けた授業科目について、教育研究院に対して開設依頼を行い円滑な授業科目の提供が行えるよう連絡・調整を行います。

また、開設要請のあった科目の他、新潟大学の特色を生かした全学的観点から開設が必要と考えられる授業科目(個性化科目等)案を作成し全学に公開します。

学務情報部門

1万人を越える学生の学籍管理や約5,500の授業科目の管理を行うため、新しい形の学務情報システムの構築と管理を行います。併せて、それらの情報を基に教育改善を行うためデータの解析等を行います。

また、新潟大学における教育に関する情報を広く学内外に発信します。

教育支援部門

大学教育開発研究センターが集積する教育改善に関わる国内国外の情報を基礎として、教員の授業改善を支援します。新任教員研修を行うとともに、様々なレベルで教育改善に関わる情報を構造化して提供する教員支援プログラムを構築します。

■連絡先／教務課 TEL 025-262-6303

03 社会連携研究センター開設

—新たなる知の連携をめざして—

当センターは、本学の社会連携戦略を構築し、知的財産の創出・管理・活用および生涯学習支援、医療・健康教育等幅広い分野の社会連携活動を支援することを目的として、平成17年4月1日に設置されました。

日本経済の成熟化、企業のグローバルな投資・立地戦略の展開に伴い、地方の産業経済、地域社会は、従来の成長路線に代わる独自の自立的な発展の道を求められてきております。

本学では、社会貢献を教育、研究に次ぐ第三の使命として位置づけ、これまでも積極的に取り組んできておりますが、本学の中にはすばらしいシーズがまだまだ沢山埋もれたままになっております。また社会的ニーズにつきましても、学内に留まっていたのでは聞こえてこない様々なニーズがあります。この学内のシーズと社会のニーズを掘り起こし、今後その連携の仲立ちをしていきたいと考えております。

本学の社会連携は、産学連携、まちづくり、文化活動の三つに大きく分けることができます。

産学連携においては、地域共同研究センターが窓口となり、これまでもシーズとニーズをマッチングすべく共同研究等を進めてきておりますが、今後は大学側から産業界に積極的に飛び込んで行き、企業の身の回りの身近な問題にも取り組んでいけるよう、関係部門と連携し、体制をさらに強化したいと考えております。

まちづくりにおいても、これまで教育人間科学部、工学部、農学部等を中心に積極的な取り組みがなされておりますが、今後は地方自治体、関係諸機関等と緊密な連携をとりなが



ら、知恵を出し合い、これらの活動がさらに大きく発展できるよう支援体制を整えたいと考えております。

文化活動では、これまで各種公開講座、社会連携セミナー、健康・医療教育、音楽会等を開催してきておりますが、今後は地元の住民の皆様と取り扱うテーマについて直接話し合える場を設け、琴線に触れる文化活動をめざし、全学一丸となってこの活動を発展させていきたいと考えております。

これらの活動を真に充実したものとするためには、その前提として「自助の精神」(Self Help)が大切になります。まず自らの夢とビジョンをしっかり持ち、最初の一步を踏み出したうえで連携にのぞむとき、真に価値あるものが生まれてきます。そしてこれら三つの活動が互いに他の活動を支えあいながら進むとき、全体としてひとつの大きな連携の波がおこり、新潟の地に新しい産業と文化が生まれてくるものと考えます。

この新しい産業と文化づくりに本学も貢献できるよう社会連携戦略を展開していきたいと考えておりますので、教職員の皆様だけでなく学生の皆様も、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■連絡先／研究支援第一課 TEL 025-262-6532

04 入学センター開設

入学センターとは

大学の「入り口」に関わる仕事を担当する組織、それが入学センターです。入学センターは、平成15年度に設置されました。そして、平成16年4月には、専任教員1名が配属され、現在は、センター長(副学長が担当)、専任教員および協力教員3名(法学部、医学部、工学部)の体制で活動を行っています。



昨年度の主な活動

昨年度の主な活動としては、入試広報と入学試験結果の分析が挙げられます。具体的には、

- 1.新潟大学への入学を考えている皆さんに、大学の情報を提供する
 - 2.入学試験の結果を様々な角度から分析し、より適切な問題を作成するための基礎資料を提供する
- といったことを実施しました。

高校生向け広報ビデオの製作

また、昨年度は高校生向けの大学広報ビデオも製作しました。このビデオは、副専攻「メディア・リテラシー」を履修している学生の皆さんを中心にプロジェクトチームを結成し、製作したものです。ビデオは、「ドラマ版」と「ニュース版」の2本ありますが、どちらも高校生の目線に近いところから、高校生が、大学について知りたいと思っていることを紹介するビデオに仕上がっています。これらのビデオについては、今後、大学説明会等の機会に上映し、また希望者には貸出も行う予定です。

入学センターの目指すもの

入試は、大学と学生の皆さんをつなぐ最初の重要な接点です。入学センターでは、各学部の先生方と協力しながら、入学する側も受け入れる側も、お互いが満足のいくシステム作りを目指しています。今後も、本学への進学希望者が、自分のやりたいことに合った学部・学科が見つけれられるような、また、大学にとっては、確かな学力を身につけ、やる気にあふれた学生が、多数、志願してくるような「入り口」の仕組みを考えていきたいと思っています。

■連絡先／入学センター TEL 025-262-6170



学外説明会
(東京会場)

Let's go! INTERNSHIP

大学を現場に出す 将来を考えるきっかけづくり

～法学部インターンシップ・プログラム～ 法学部 栗原眞佐子

学生が、官公庁や法律事務所、マスコミ、サービス業などで、実際に現場で就業体験をする「インターンシップ」。この制度は、教員や、医師、看護師など特定の職業につくための必要条件として古くからありましたが、現在では、目的を変えて多くの企業や組織に普及しています。

インターンシップは「社会、仕事、人間」を総合的にみる機会の一つとして提供されています。参加する学生が、今日の企業や組織の置かれている状況や職場の仕事ぶり、人間関係を実際に体験し、学生自身が「働く」こととはどんなことなのかを、身を持って学び、自分の長所や短所を見直し、社会にでることについての勇気や自信を得る絶好の機会です。

学生はこの機会を通じて得られた貴重な体験をもとに、社会への認識を深めるとともに、自分の能力や適性を見つめ直し、学窓に戻って、それまで以上のモチベーションを持って勉学に励むようになるのです。

法学部では、現場における就業体験をすることによって、それぞれが法学部における勉学を進める契機とすること、自らの職業選択を考える契機とすることの二つを目標に、1997年に国公立大学の法学部では初めて正規の授業科目として「インターンシップ・プログラム」を導入しました。幸いにも多数の組織や法律事務所、民間企業やNPO等のご理解とご協力をいただき、この8年間で延べ373の組織に483人の学生

インターンシップとは、学生が在学中に将来のキャリアに関連した就業体験を自ら行うこと。
新潟大学では、キャリアセンターをはじめ、各学部でもインターンシップを活発に行っています。
中でも特に多くの学生がインターンシップ制度を活用しているのが、法学部。
そこで、法学部インターンシップ実行委員会委員長である栗原眞佐子先生からインターンシップに関する原稿をいただきました。

行 こうしな

インターンシップに



マナー講習会 (2005.7.12)

を派遣し、今年で9年目を迎えました。インターンシップは受け入れていただく組織や企業のご理解とご協力があったはじめて実施できます。これまで多くの学生を受け入れていただいた延べ組織と担当者の方々にご指導をいただき深く感謝しています。

インターンシップを実施するにあたり、法学部では毎年6月に希望者に説明会を開催し、実習が決まった学生に対しては、事前打合会を開催しています。

今年度の説明会は3年生の150名が出席し、併せてインターンシップを体験した卒業生と昨年度の実習生の体験発表会を開催しました。卒業生には、インターンシップと職業選択との関連、就業しての感想、後輩へのアドバイスを中心に、また、昨年度実習生には、インターンシップの動機や、大学での勉強が社会ではどのように役にたっているのか、そこで何を学んだのか、今後どのように活かしていきたいかを話してもらいました。この体験発表会は、これから参加を希望する学生にとって現場を知る絶好の機会となりました。また、事前打合会では社会人としてのマナーを身につけてほしいということから、専門家によるマナー講習会も併せて実施しています。



法学部では、カリキュラムとして実施しているため、事前と事後に学習させ、事前レポートと事後レポートを課しています。

事前レポートは目的意識の明確化や業務内容を理解するために、必要な資料や情報の収集後、作成するよう指導しています。また2003年度から8名のクラス担任による事前と事後のレポート指導をしています。実習は、実習先によって異なりますが、夏休み期間の8月から9月の2ヶ月の間に1週間から4週間、実施しています。実習生は10月になると全員が学窓に戻ってきて、事後レポートを提出します。実習後の事後レポートは、事前レポートと比較すると文章力や言語表現に進歩が見られ、クラス担任による指導の成果であると思われます。この事後レポートは実習先に送り、誤解していた部分や、

訂正が必要な箇所があればご指摘いただき、学生に書き直して提出させ、改めて実習先に送付しています。そして12月には総括会議を開催し、各業種別に実習生による体験発表会を開催しています。今年度はお世話になった実習先の担当者をお招きして、交流会を開催する予定です。



事前打合会 (2005.7.12)

私はこのインターンシップの授業を担当して5年目になります。受け入れ先の依頼に始まり、受け入れ先との連絡、実習生の決定、説明会や事前打合会を開催、総括会議や体験発表会、そして報告書を作成するまでにいろいろな苦労がありますが、体験した学生から、毎年、「社会人とし

ての意識を持つことが出来た」「コミュニケーションの大切さがわかった」「仕事に対する責任感と他人を思いやる心を知った」「進路の参考になった」という感想があり、それまでの苦労が報われた気がします。そして、学生にとってこれからの人生を考える上での貴重な体験になったことにや

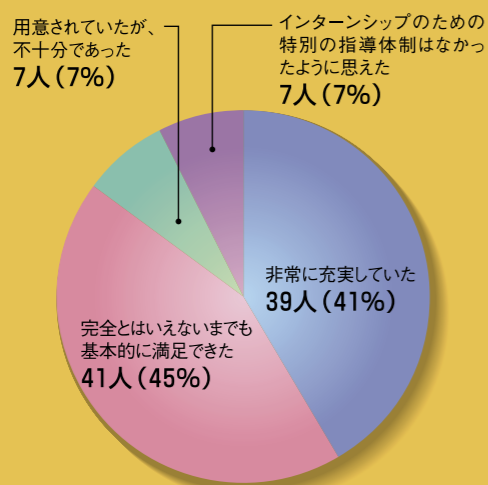
りがいを感じます。これからもカリキュラムとしてのインターンシップの構築にむけて工夫をしながら、実施していきたいと思います。



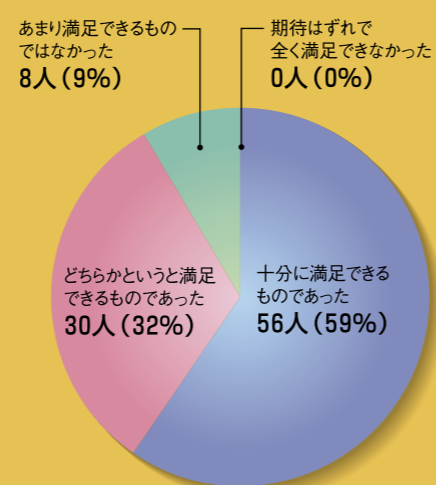
就職体験中の学生(新潟インターンシップ推進協議会提供)

法学部インターンシップ 学生アンケート (2004年度法学部インターンシップ報告書より)

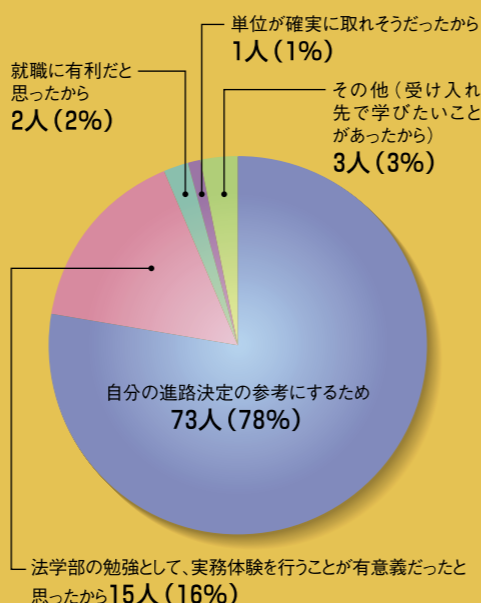
実習先の受入体制・指導体制(担当者、個人の机、教育・実習プログラムなど総合的に)は、整っていましたか?



インターンシップに対する満足度は?(希望と合致していたかどうかに関係なく)



インターンシップに参加しようと思った最大の理由は何ですか?



Let's go! INTERNSHIP

人文学部

人文学部助教授 ● 中村 隆志

新潟大学人文学部は2000年度よりインターンシッププログラムを始めました。今年度で6回目を迎え、志望者は増えてきています。一時期は導入への懸念がありましたが、今では学生への周知もうまく進んでおり、またにいがたインターンシップ協議会のHP(<http://www.niigata-internship.jp/>)が有効に機能しているせいか、大きな不安もなく、順調な進展を遂げております。ただし、やはり怪我や事故などへの心配は依然として続いており、担当者間の連携をどうとっていくかが課題として残るようです。大きな事故が起こる前に、できることを考えておくべきでしょう。

教育人間科学部

教育人間科学部助教授 ● 雲尾 周

教育人間科学部のインターンシップは平成12年度から始まる。平成10年度に学部改組し学校教育課程以外に4つの新課程が設けられ、その個々の課程において3年次学生を対象に新しいカリキュラムとしてインターンシップが実施されている。受入機関はそれぞれの課程の専門に応じた公的機関や、必ずしも営利を目的としない団体が多いことが特色である。専攻に関連する機関での実習のため、戦力として受入先から歓迎されており、学生も講義と実社会が結びつくことから学習意欲・理解度が高まるという成果がある。健康スポーツ科学課程(毎年約30名のインターンシップ)では必修科目、学習社会ネットワーク課程(同20数名)、芸術環境創造課程音楽表現コース(同10数名)では選択科目として単位認定している。生活環境科学課程では試行を経て平成17年度から本格実施・単位認定する。

理学部

理学部教授 ● 檀上 篤徳

理学部におけるインターンシップは平成11年度、自然環境科学科で開始されました。平成13年度に、理学部総合科目「インターンシップ特別実習」を開設し、理学部の実施体制を整備しました。このインターンシップは、開始当時より、在学中の就業体験を通して、学生が自らのキャリア形成を積極的に進めることを支援する教育プログラムと位置づけられてきました。

学生の意識の向上、受け入れ事業所との相互理解を深めるために、「インターンシップ講演会」、「事業所との懇談会」を開催して、理学部のキャリア教育体制の整備に努めているところです。詳しくは、平成15年3月発行の「インターンシップ報告書」を参照して下さい。

工学部

工学部助教授 ● 佐伯 竜彦

工学部建設学科社会基盤工学コースでは、30年以上にわたってインターンシップを実施しています。夏期休業期間を利用して、毎年30名程度の3年生が参加しています。期間は3週間前後で、官公庁や建設会社等で実務に関する実習を行っています。参加した学生は、インターンシップ終了後の報告会で実習の内容や感想等を報告しますが、大学での講義と実務の関係について理解が深まった、就職先を考える場合において大いに参考になった等の感想が多く、インターンシップ制度は高く評価されています。

農学部

農学部教授 ● 荒谷 明日兒

農学部では、農業生産科学科および応用生物化学科が各学科におけるインターンシップを、また生産環境科学科ではコース別(生物生産情報工学、地域環境工学、森林管理科学、生態環境科学)インターンシップを開講している。このうち生産環境科学科では、受講対象者を各コースの学生に限定している。これに対し、農業生産科学科では新潟県の斡旋による農家への宿泊研修のほか、妙法育成牧場、県立植物園、市立園芸センターなどを学科認定の研修先(学生が独自に開拓するものも基本的可)とし、応用生物化学科では学生の希望にあわせて、教員が食品関連の企業や研究所などを紹介している。なおこれら2学科の間では、各学科の学生が他学科のインターンシップを相互に受講することも可能にしている。

インターンシップに参加して

第四銀行 <<<

経済学部経営学科 4年 山崎達也



私は株式会社第四銀行のインターンシップに参加しました。内容としては1週間程度の講義形式をとっており、毎日交代で様々な部署の方からお話をお聞きしました。構内の裏側も案内していただき、普段覗くことの出来ない銀行業務を見せていただきました。行員の方によると働いている行員でも話を聞ける機会がめったにないような方からお話を聞けるということでした。大学の講義によって銀行の業務についてある程度の予備知識はあったものの、お話を聞かせていただいたことで学校では学ぶことの出来ないことを知り、現場で働く方の生の声を聞ける良い機会となりました。社会の中で問われる法令遵守、コンプライアンスの大切さ。金融機関ではどこも直面する、融資における審査の重要さという2点が特に印象に残りました。

就職活動では金融機関におけるある程度の業務内容や概要をインターンシップの経験から知ることが出来たので、説明会に参加した際に積極的に質問、また聞きたいことを人事の方からお伺いすることが出来ました。自分が金融機関で働きたいと志望動機を考える際にもより具体的に考える助けにもなりました。

就職活動を終えた現在では、銀行業務の種類に触れたことで今後自分がどのようなキャリアアップを行いどのような仕事をしていきたいかということを考える上での助けとなってくれています。また普段聞けない貴重なお話を聞くことができ、会社に対する距離が近くなったように感じます。

今後は働いていく中で初心にかえり、仕事をする上でのやりがいをみつめる助けに。また様々な部署が連携して機能していることを理解し、お互いを尊重しあって高める糧になればと考えています。

・第四銀行 インターンシップ実施日程	
研修日	研修内容
8/24	午前 銀行業務のしくみ オリエンテーション
	午後 営業店業務について 営業部の見学
8/25	午前 リスク管理とコンプライアンスについて
	午後 EB、だいしダイレクトATMシステムについての説明 コールセンターの説明、見学
8/26	午前 システムリスクについて 第四銀行システムの変遷と将来展望
	午後 広報室の活動 資料室見学 有価証券運用について 市場運用部見学
8/27	午前 法人取引企画・推進 消費者ローン企画・推進
	午後 預り資産企画・推進 PR企画 融資審査・管理 取引先支援活動について



シビアな社会での戦いを感じ取る

日本精機株式会社 <<<

工学部福祉人間工学科 4年 小熊隆史



私がインターンシップを知ったのは一年の冬だったとおもいます。大学掲示板にあった掲示を読んでその存在を知ったのですが、そのときは参加しようとは露にも思いませんでした。そのうち周りの上級生がインターンシップに参加しようとしている姿を見て、それならと自分も参加しました。

そんなふうにならぬように参加したわけですが、インターンシップに参加した後の感想としては、実際、社会に出て働くということはアルバイトをすることは全く異なるということを感じました。例えば、私がお世話になった企業の方に教わったQCDDという概念です。品質(Q)、コスト(C)、納期(D)。これを保証することが会社の総力とこのことです。ちなみに品質とは優れた機能を持っているだけなのではなく(持っていることも必要ですが)、不良品がなくスベック通りに作り出す技術もまたふくまれるのです。こういった考え方は普通に学生生活を送っていたところで感じられるものではありません。一分一秒、一円一銭とシビアな社会での戦いというのを感じることは、自分にとって十分な刺激となりました。こういったシビアな仕事に対する“感覚”というものは文書などの文字やあるいは人の話といった間接的なことから

なかなか理解しにくいと思います。

また、印象に残っているのは、働いている人が自分の仕事に誇りを持っているということです。作っていた製品を満面の笑みで説明してくれた従業員の方々の姿をみて、自分が本当に何をやりたいのか、どういった仕事をしていきたいのか真剣に悩むきっかけにもなりました。そのため就職活動もすいぶん助かりました。10年後の自分にあそこで働いていた従業員の方のように自分の商品に自信を持って笑顔で説明する、そんな人間になってやろうと思います。

・日本精機株式会社 インターンシップ実施日程		
研修日	研修場所	研修内容
8/17	本社・高見工場 R&Dセンター等	会社概要説明 工場見学 安全衛生管理・品質管理 会社組織と仕事の流れ 等
8/18 8/20	高見工場	工場ライン概要説明 二輪メータライン実習 等
8/23 8/27	高見工場	四輪メータライン実習 産業カウンセラーの話 等



インターンシップ体験記 ～ 百聞は一見に如かず! ～

オリンピア照明株式会社 <<<

自然科学研究科 2年 貝塚さなえ



前期の授業もそろそろ終わりを迎えようとしているある日、私の目にある掲示物が入り込んできました。「キャリアインターンシップのお知らせ」

前から興味はあったのでどんな企業から募集が来ているのか調べるとなんと私が第一志望としていた企業の名があったのです。私にとってはまたとないチャンスだと思いその場で参加することを決めました。しかし、今考えれば希望している企業に行けるかどうかは後々決定することで…

数日後、私に届いた配属先決定のお知らせはなんとうれしいものでした。

8月の末から2週間、私はインターンシップに参加しました。私がお世話になった企画室の方々には若い人が多く、なじみやすかったです。仕事内容は新製品の会議や書類の整理から製品の組み立て作業までありました。何もかもが新鮮で楽しい毎日でした。苦しかったことといえば早起きと長距離運転でしょう。

実習の中で一番学んだことは、自分の仕事に対する責任と人の育て方です。

書類の訂正を頼まれたときのことでした。内容は簡単でしたが終わるのに半日かかりました。見落としがあったり付け加えがあったり。先輩はどんな小さなことも見逃さず私のところへ持ってきました。先輩自身がやっちゃってしまえば意味が無い。次回同じ仕事を任せられたとき一人で仕上げられるように、ということだったと思います。何度も見直しを隔々までやること、見やすいものにする。与えられたことだけでなくその先も見据えるという大切さを学びました。

私が志望している企業はどういった雰囲気のか会社で何をしているのかを確かめるために参加したインターンシップ。結果、それを知るには十分なものでした。

あれから約9ヶ月。私はお世話になったこの企業から内定をいただきました。あの時大失敗をしていたらきっと私の今の状況は無かったでしょう。どんなHPや本よりも参考になるドキドキな企業研究のやり方。参加して本当によかったと思います。

● オリンピア照明株式会社 インターンシップ実施日程		
研修日	研修場所	研修内容
8/30	新潟工場	午前 図面検討会見学 照明工学の勉強
		午後 部品資料作成 社内資料スキャン
8/31	新潟工場	午前 メッキ資料作成 照明プランニングの勉強
		午後 梱包パッキング穴あけ作業 試作品検討会見学
9/1	新潟工場	午前 社内資料スキャン カタログメーカー引き
		午後 カタログメーカー引き 資料作成
9/2	新潟工場	午前 特注品組立手伝い
		午後 特注品組立手伝い 部品表作成
9/3	新潟工場	午前 社内パソコンネットワーク系の勉強 照明コンサルタントの勉強
		午後 社内資料スキャンのマニュアル作成 社内資料スキャン
9/6	新潟工場	午前 原価表作成 社内資料スキャン
		午後 社内資料スキャン 製品組立手順書作成
9/7	新潟工場	午前 丸型ダウンライト組立手順書作成
		午後
9/8	新潟工場	午前 角型ダウンライト組立手順書作成
		午後
9/9	新潟工場	午前 横型天井照明組立手順書作成
		午後 塗装工場、メッキ工場見学
9/10	新潟工場	午前 横型天井照明組立手順書作成
		午後 社内見学 社内資料スキャン

藤田善六法律事務所で 得たことを財産に

藤田善六法律事務所 <<<

法学部法学科 4年 加賀谷達郎



私は、2004年度の夏休み期間、新潟市の藤田善六法律事務所(弁護士事務所)に、法学部が実施しているインターンシップ・プログラムの実習生としてお邪魔しました。

私が弁護士事務所でのインターンシップを希望したのは、①大学で勉強している法律が実社会ではどのように運用されているのか、②自分が将来就きたい職業である弁護士とはどのような内容の仕事をしているのか、の2点を自分自身の目で見ることによって、法律に対する理解を深め、将来の進路決定等の参考にしたいと思ったためです。

実習の内容は、弁護士業務の専門性等もあり、弁護士の先生方に同行しその仕事の様子を横で見ていることが主でした。具体的には、裁判傍聴・会社の契約業務・法律相談等に同席しました。他には、裁判記録を閲覧しその事件について、または、実際の事件を素材にした事例について、弁護士の先生から「その事件では何が問題となっているのか」、「(自分が弁護士だったら)どのような主張するのか」ということを尋ねられ、私が自分なりに出した考えを述べ、それについて先生方と議論するということが何度か行いました。

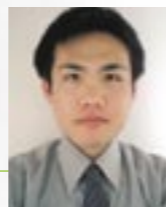
この実習を通じて、私は実習前に掲げた課題(前述①及び②)について自分なりの答えを見出すことができました。まず、①法律は、紛争解決や依頼人の主張する権利実現のための「道具」の1つではあるが、紛争解決や依頼人の権利実現が協議・交渉を経た当事者の合意によって達成される場合もあり、このことから、実社会における法律は、唯一絶対的なものとして形式的な運用がなされるのではなく、その場に応じた柔軟な運用がなされているのだと感じました。また、②弁護士の業務内容は、裁判等における当事者の代理人のみならず会社役員、裁判所の調停委員等非常に多岐に渡るものだと感じました。

昨年経験したインターンシップは、私にとって、自分の理解・考察を深める、将来の進路決定の参考にする上で、非常に有意義なものとなりました。しかしそれ以上に、藤田先生をはじめ事務所の方々とお会いすることが何よりも貴重な財産となりました。私は現在受験勉強中の身ですが、インターンシップで経験したこと・得たものを、自分自身の力

として、支えとして、そして、勇気として、今後も勉学に励んでいきたいと思っております。

● 藤田善六法律事務所 インターンシップ実施日程		
研修日		研修内容
8/26	午前	民事事件の資料を読む。契約書作成の下打合わせに同席。
	午後	法律相談に同席。民事事件の関係者事情聴取と裁判打合わせに同席。弁論準備に同席(新潟地裁)。契約書作成の打合わせに同席。
8/30	午前	調停に同席(新潟地裁)。家裁で案内ビデオの鑑賞。
	午後	調停に同席(新潟地裁)。民事裁判の打合わせに同席。
9/2	午前	弁論準備、裁判打合わせに同席(新潟地裁)。法律相談に同席。
	午後	法律相談に同席。
9/6	午前	民事再生計画の記録を読む。
	午後	民事再生事件の打合わせに同席(新潟地裁)。事例研究(課題)。
9/7	午前	昨日の課題につき勉強。民事事件の資料を読む。契約書を読む。
	午後	法律相談に同席。課題に関する民事裁判記録を読む。
9/8	午前	課題に関する民事裁判記録を読む。民事事件の資料を読む。
	午後	調停に同席(新潟地裁)。課題に関する民事裁判記録を読む。課題につき検討。
9/9	午前	民事事件の資料を読む。
	午後	法律相談に同席。調停の打合わせに同席。
9/10	午前	民事裁判に同席(新潟地裁高田支部)。
	午後	法律相談に同席(燕商工会議所)。民事再生事件の打合わせに同席。
9/11	午前	家事審判申立書を読む。民事裁判準備書面を読む。
	午後	藤田先生の講義。
9/13	午前	契約書を読む。民事再生計画の記録を読む。
	午後	法律相談に同席。民事裁判の傍聴(新潟地裁)。民事裁判の打合わせに同席。
9/14	午前	民事裁判の記録を読む。民事事件の記録を読む。
	午後	弁論準備(新潟地裁)。民事裁判の打合わせに同席。
9/15	午前	契約書を読み、教科書の該当する部分を読む。
	午後	弁論準備(新潟地裁)。廃棄資料の精査作業の手伝い。法律相談。相談内容に関して藤田先生の補足講義。
9/17	午前	示談斡旋の記録を読む。契約書を読み、教科書の該当する部分を読む。ポランディアの同意書を読む。
	午後	法律相談に同席。契約書作成に関する最終打合わせに同席。
9/24	午前	民事裁判の訴状・資料を読む。
	午後	調停に同席(新潟地裁)。民事事件について検討。
9/30	午前	民事再生についての債権者説明会に同席(ユニオン・プラザ)。
	午後	弁論手続(新潟地裁)。法律相談に同席。

経験することは何よりも大事なこと



2005年 工学部情報工学科卒 会田 知武

私は大学3年の時点で、院に行かずに就職することに決めていました。しかし、その時点で具体的な就職準備などをおこなっていなかった自分は、「そのまま社会に出て行って、ちゃんとやってくれるだろうか?」と不安に襲われたのです。

そんなとき、インターンシップの存在を知り、自分の見聞を広げるために自発的に申し込んでみました。余談ですが、大抵の人は大学2年のときに参加するそうで、3年の僕が行ったのは珍しいことだったそうです。それでも就職部の方は、快くインターンシップ先を紹介してくれました。

インターンシップの初日は、やはり緊張しました。けれども人事担当の人は優しく、また通された職場も和やかなものだったので、自分が深く考えすぎたことに気付かされ、いくぶん緊張が和らいだ状態で仕事をこなすことができました。

それだけではなく、仕事が終わったあとの報告や、会社でのマナーなど、会社で働くうえでのノウハウも教えてもらい、人生経験において確実にプラスとなりました。

そして、この経験は実際に就職活動をおこなって

Profile

2003年9月 株式会社NS・コンピュータサービスでインターンシップ

2005年3月 工学部情報工学科卒業

いるときにも、とてもプラスになったと思います。「会社で働いていた」ということが一種の自信となり、筆記試験では落ち着いて望め、面接試験ではきはきと答えることができたからです。

そして実際に就職してからもその自信は続き、もともと慣れている職場、ということですぐに周りの雰囲気にも溶け込むことができました。

ですので、皆さんも機会があるならば、インターンシップに進んで参加してみることをオススメします。経験することは、自分を成長させる上で何よりも大事なことなのですから。



インターンシップを振り返って



2004年 法学部法政コミュニケーション学科卒 大門 杏子

インターンシップに参加しようと思った当時、それから半年後に始まる就職活動についての具体的なプランを立てることができない状態でした。大学卒業後にどういった分野で働きたいのか、そもそも仕事というものがどういふものなのか、そういったことを真剣に考えなければいけない時期に、インターンシップの募集があり、これを期に自分の進路を考えようと思い、この制度への参加を決めました。

就職に関しては、民間企業で働きたい、しかも社会のインフラを支えているような企業に勤めることで、社会に貢献していきたいと考えていました。そこで、企業や家庭にエネルギーを供給し、社会を支えておられる北陸ガスさんが自分の就職希望する企業のイメージに近かったというのが、北陸ガスさんを選択した理由でした。また、近年、学生時代に思い描いていた仕事に対するイメージと現実とのギャップに悩み、就職後数年で退職してしまう例が多いと聞いていたので、そのようなことは避けたいと思い、少しでも仕事というものを理解できればと考え、その点でもインターンシップはよい経験になると思われました。

2週間、様々な部門で、担当者の方にそれぞれの業務内容を聞いたり、また実際に現場を見させていただいたり、お客様のところへ訪問させていただいたりしました。その中でも、法学部生であるにも関わらず、事務の仕事だけでなく、工場の現場や製造の現場などを体験させていただけたのは、会社の業務への理



社員の方と一緒に工事現場を見学

Profile

2002年9月 北陸ガスでインターンシップ

2004年3月 法学部法政コミュニケーション学科卒業

解を深める助けになりました。

そして、働き始めて一年過ぎた今思えば、そのように会社全体の業務を経験することは、自分の仕事かどういふ意味をもっているのかを把握すること、そして仕事を進める上で一つの物事を深く理解するためにも大変重要なことでした。仕事をできるようになって、その時は自分の仕事とは全く関係ないと思えることでも、後々思わぬ場面で役立った、ということが何度かありました。私は現在、運輸会社で総務の仕事に携わっていますが、お客様からの問い合わせに応じることもあり、そういった場面では貨物の流れなどを理解していないと臨機応変に対応することができません。自分の仕事はこれだけだからその事だけでいい、というわけではなく、様々なことを吸収していかなければ仕事できません。前述した、仕事への理想やイメージと現実のギャップに戸惑い仕事を辞めてしまう、というのは、広く経験することに何らかの理由が即時に見出せないことへの不安からも起こるのではないかと思います。その点、インターンシップで予行演習できたことは、仕事を始めた頃にぶつかった悩みを乗り越えるための助けになってくれたと思っています。この場を借りて、ご多忙中このような貴重な経験の場を与えてくださった北陸ガスの方々、そして法学部のインターンシップ実行委員会の方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

体験を通じて 社会・企業の理解を!

株式会社第一印刷所



当社は、印刷物にとどまらず、ホームページの作成、映像メディアの作成、イベントの運営、システム開発までトータルにコンサルティング・コーディネートする情報コミュニケーションのソリューション企業です。当社のインターンシッププログラムでは、前半の5日間は営業と一緒にお客様を訪問し、社会人としての考え方やお客様とのコミュニケーションの大切さを体験していただきます。

きっと新規開拓の面白さやお客様に喜んでいただける現場に直面し感動することと思います。

後半の5日間は製造本部で印刷物が完成するまでの工場見学や働く大変さ・大切さを実感してもらうため、達成感を得られるような実作業を体験してもらいます。

インターンシップを経験したあとは、日頃目にしていた様々な印刷物の見方が変わり、きっと楽しい思い出になることと思います。自分なりの目標を持ってインターンシップに望んでいただき、学生と社会人の違いを実感し、就職する際の会社を選ぶ視野を少しでも広げてもらいたいと思います。

人事課長 竹野 茂

有意義な研修プログラムを用意しています

新潟日報社

インターンシップ生から、研修後「『新聞社は職種のデパート』と言われるほど、多種多様な仕事があることを知りました」との感想を毎年のように耳にします。学生の皆さんは「新聞社=記者」のイメージが強いようです。

当社のインターンシッププログラムは、新聞がどのような工程で制作され、読者に届くのかという新聞社の全体像を理解してもらうことを研修の主要テーマにしています。結果、新潟大学のインターンシップ生の多くが、研修前は「編集・記者志望」でしたが、研修後「事業・催事企画」をやってみようなど、色々な仕事に興味を示すようになります。

マスコミ・新聞社に関心がある学生の皆さん、当社のインターンシップにご参加下さい。我々もより有意義な研修プログラムを用意してお待ちしています。

最後になりますが、日々、新聞・本など活字を読む習慣を身に付けてください。将来、きっとあなたの役に立ちますよ!!!

総務局人事企画部 榊原 仁雄



新潟大学法学部留学生インターンシップにおける編集局での実習風景

インターンシップ 受入事業所として

社団法人 新潟県経営者協会



当協会は、日本経済団体連合会(会長 奥田碩)の地方組織として経営に関する情報提供、相談業務、人材育成支援をはじめ、地域経済発展のため幅広い活動を展開している経済団体の一つです。

一般企業や官庁での“仕事”は、おおよそイメージが湧きますが、いわゆる団体における“仕事”は想像し難い分野と思います。そこで、インターンシップの学生さんには、私ども団体業務を知ってもらうだけでなく、広く“仕事全般”を知ってもらい夫々の違いを認識するなかで、職業選択の引き出しを多く持ってもらうよう内容を工夫しています。

- ・経協事業の理解と実務体験
- ・関連行政・事業所への訪問、ヒアリング
- ・労務に関する課題研究、発表

昨年は、3大学・6名の学生を受け入れ5日間にわたり実施しました。熱心な取り組み姿勢から、私どもにとっても日常業務を再点検するあっという間の1週間でした。

学生さんの意欲が我々のエネルギーを引き出し、更に実のあるインターンシップとなるよう取り組む所存です。チャレンジをお待ちしています。

事務局長 山岸 英一

住宅の照明プランニングを 課題に

オリンピア照明株式会社

当社は、国内のお客様・市場に対して、住宅・店舗・施設用照明器具の企画・デザインから製造・販売までを一貫した体制で行っている照明器具メーカーです。

学生さんには、毎日何時間か自習時間を設け、一般の人が見る機会の少ない住宅照明器具のカタログから、照明の種類や特徴を学んでもらい、住宅の照明プランニングをインターンシップ期間の課題として与え、2週間の短い期間ですが一般住宅でも色々な照明器具があることを学んでもらいました。

一般業務では、照明器具の試作品の組立・配線、照明器具を製造する作業者が使用する組立手順を示す作業標準書の作成など、物造りに直接関係する業務をおこなってもらいましたが、従業員に負けないくらい真剣に取り組んでもらい当社としても大助かりでした。

今後も希望があれば受け入れ、将来のお役に立てればと思っています。

企画室 媚山 誠



受入企業 メッセージ

キャリアインターンシップ キャリアセンター

キャリアセンターで実施している「キャリアインターンシップ」は、主に学部2年次生および大学院1年次生といった低学年次を対象にしています。これは低学年次から就業体験を行うことにより、早いうちから働く意識を確立させ、職業への正確な知識を得ることを目的としているからです。

大学生の就業について、卒業後、就職しても3年以内に離職している者が、残念なことに3割にも上ります。この状況に陥った大きな理由として、職業・職種への理解不足が考えられます。

キャリアインターンシップでは、実際の企業の現場での就業体験を通して、業界や業種に対して漠然と描いているイメージと現実の業務とのズレを解消し、目指していた職業が本当に自分に向いているのかを見極めることができます。

そして、希望する職業に就くためには何が必要なのかを低学年次の内から理解することにより、残りの学生生活をより有効的に過ごすことが可能となります。

職業へのイメージと
現実の業務とのズレを解消するインターンシップ

また、キャリアインターンシップに2年次生で参加した後、3年次に各学部で実施しているインターンシップに参加することで、より自身の適性を理解することにも繋がります。

今年度は約100名の学生が応募し、出版や流通・サービス業、官公庁を中心に12業種で、夏休みを利用して就業体験を行なう予定にしています。参加した学生からは「働くということの意味や、働くということによって社会が互いに成り立っているということを実感できた」「大学生活について、改めて考えるきっかけとなったと同時に、企業や就職に対する不透明感が薄れた」といった意見がよせられています。

貴重な機会となる「インターンシップ」に、みなさん奮って参加してください!



キャリアインターンシップ実習風景

インターンシップ実績表 <平成16年度>

学部名等	実施学科	実施時期(日数)	対象学年	単位の認定	参加学生数	派遣企業数
人文学部	行動科学課程	夏期休業期間中 (2週間程度)	3年	有	6人	5社
	地域文化課程					
	情報文化課程					
教育人間科学部	学習社会ネットワーク課程	7~10月(2週間)	3年	有	25人	17社
	生活環境科学課程	7~8月(2週間)			7人	7社
	健康スポーツ科学課程	9月(2週間)			30人	9社
法学部	全学科	夏期休業期間中(1~4週間程度)	2~3年	有	94人	72社
経済学部	全学科	夏期休業期間中(2週間程度)	3年	有	9人	6社
	経営学科		3~4年		14人	14社
理学部	数学科	夏期休業期間中(約2週間)	3年	有	1人	1社
	物理学科				1人	1社
	化学科	夏期休業期間中(1~2週間)			3人	2社
		春期休業期間中(約2週間)			2人	1社
	生物学科	夏期休業期間中(約1週間)			1人	1社
	地質学科	夏期休業期間中(1~2週間)			3人	3社
春期休業期間中(約2週間)		1人	1社			
工学部	建設学科	夏期休業期間中(3週間程度)	3年	有	38人	36社
	機能材料工学科	夏期休業期間中(2週間程度)			17人	17社
農学部	農業生産科学科	夏期休業期間中 (2~3週間程度)	全学年	有	20人	6社
	応用生物化学科		2~3年		10人	9社
	生産環境科学科		3年		47人	37社
キャリアインターンシップ	全学部・全学科	夏期休業期間中 (2~3週間程度)	主に学部2年次生と大学院1年次生	無	63人	36社

インターンシップに行こう

インターンシップに行こう

I N T E R N S H I P

自殺を減らそう！わたしたちにできることは？

保健管理センター 村山 賢一

友人に「もう死んでしまいたい」と言われたら、どうしますか？
もちろん自殺して欲しくないですが、どうしたらよいでしょうか？
今回は自殺の予防について考えてみましょう。

1.自殺の統計

昨年の日本の統計では、自殺は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎、不慮の事故に次ぐ6番目に主要な死因でした。ここ数年、毎年30,000人の方が自殺され、新潟県では昨年766人も自殺がありました。都道府県別の自殺率では7位でした。ここ10年以上はずっとワースト5位以内だったので少し下がったのですが、もっと減らしたいですね！

2.自殺の背景

報道などでは「過労自殺か」「いじめが死に追い込んだ」のようにすぐに原因探しをする傾向がありますが、自殺には多くの要因が複雑に関与しており、表面的に判断すべきではありません。遺書を調べた昨年の統計では、「健康問題」が最も多く4割弱を占め、次いで「経済生活問題」が3割強でした。しかし、それだけではその人の心の状態がみえてきません。自殺の背景を心理学的剖検という方法で調べたある研究によれば、実に自殺者の9割が何らかの精神的不調をきたしており、特にうつ病等の気分障害が多く、他には薬物依存、統合失調症などでした。これらはそれぞれ治療でよくなる病気です。このような病気が死にたい気持ちにさせているとすれば、特にうつ病では死にたい気持ちが起きやすいことが病気の特徴です。治療を行うことで、自殺を未然に防ぐことも可能と考えられるのです。

3.自殺の予防

しかし、残念なことにこれらの人のほんの一握りしか必要な治療を受けていないのが現状です。それでは、どのようにしたら、うつ病などのせいで死にたい気持ちと戦っている人を治療につなげることができるでしょうか。そのためのヒントとしてうつ病の特徴に注目しましょう。うつ病は、「ゆううつ」や「おっくう」などの気分や意欲の症状だけでなく、不眠、食欲低下、

頭痛、吐き気、倦怠感、手足のしびれ、めまい、動悸、発汗、便秘、口の渇き、味覚の異常など様々な身体症状を伴うため、身体の症状で病院を受診することが少なくないようです。そこで、一般の開業医に精神的訓練を行って、うつ病の診断能力を上げることで自殺を減らそうという取り組みがあり、実際に成果をあげています。

新潟県で成果をあげている取り組みもあります。新潟大学医学部精神科の自殺予防グループは、松之山町（現十日町市）で、65歳以上全員にアンケート調査し、うつ病の疑いが強い人に精神科医が訪問面接をしてうつ病を見つけ、治療につなげていったところ、自殺率が活動前の4分の1以下に激減しました。この働きから、うつ病の人を地域でサポートする態勢が自殺予防にきわめて重要であることがわかりました。この取り組みは今も続けられ、他の地域でも同じような取り組みが始まっています。

4.わたしたちにできること

それでは、わたしたちにできることは何でしょうか？
落ち込んで「死にたい」と言っている人あなたはどう接しますか？「元気出さないよ。しっかりして」とはげますか？けれど、うつ病の人はむしろ頑張りすぎてそうなった場合が多いので、「頑張り」と言われると、「もう頑張りたくない」と自分を責め、かえって死にたくなってしまふことがあるのです。自分の意見を言ったり、非難したりしないで、何かするというより、話をじっくり聞いてあげて下さい。その人の辛さをじっくり受けとめ、そっと支える存在となってあげて下さい。

そして、うつかもしれないと思ったら、「きっと治るから」と、治療を勧めして下さい。その人の話を十分に受けとめたあなたの勧めを、その人も受けとめてくれるのではないのでしょうか。治療を勧めることは、勇気が必要なことですが、その勇気が相手の命を救うこともあるのです。

Q1

キャリアセンターはどのように利用できるのですか？

キ ャリアセンターでは、就職の他に、進学やキャリア形成の指導など、みなさんの進路全般に関する支援を行っています。主に情報提供、進路相談、各種ガイダンスの開催の3つを中心に行っています。

①情報提供

OB・OG名簿、求人票ファイル、就職関係ビデオ教材などの各種参考資料、情報検索用パソコン、プリンター、コピー機を設置し、学生が最新の情報を入手できるようになっています。

②進路相談

学生の進路に関する相談や悩みに対応するために、プライベートが守れる相談コーナーを設け、キャリアセンターの職員が随時、指導や助言を行っています。

③各種ガイダンスの開催

学内外から講師を招き、就職支援だけでなくキャリア形成に関するガイダンスを、主に学部3年次生と大学院1年次生を対象に9月末から実施しています。

Q2

就職活動の開始時期についていろいろ聞かれますが、3年生の何月頃から開始するのですか？

絶 対的にいつ始めなければいけないということはありませんが、首都圏の大手企業から10月頃を目処にエントリー（申込）を開始し、それに続き他企業も採用活動が本格化してきます。そういった採用活動のスケジュールに乗るためにも、早い段階で希望する地区（限定する必要はありませんが首都圏・県内・リターン等）やどのような仕事（業種・職種）をしたいのかイメージしておく必要があります。それにより必要なタイミングに行動を起こすことができます。

そしてイメージするために、自分を知ること（自己分析）、「働く」ということを知ること（インターンシップ、OB・OG訪問等）といった準備を行うと良いでしょう。

※これらは低学年次からでも行えることです。

Q3

もしなかなか内定がもらえなかった場合、いつまで就職活動は続くのですか？

近 年、通年採用や秋採用を導入する企業も多くなってきています。もちろん2次募集もありますので、あきらめずに活動を続けましょう。実際、キャリアセンターには3月まで求人のために企業の採用担当者が訪れます。こういった求人は、メールや掲示でお知らせしますのでチェックしてください。

3月31日までは新卒、早い遅いに関わらず同じ内定なのです。あきらめずにがんばりましょう！

また、内定がなかなかでない場合は、ひとりで悩まずキャリアセンターにお越しください。

Q4

ずばり就職活動の必勝法はありますか？

自 分の未来について意識すること、大学生活を充実させることが大切です。就職するということは、理想とする自分に近づくための第一歩。自分が「将来どうありたいのか」、そのためには「何が必要なのか」「今何を行えば良いのか」を常に考えている人はそれだけ早く行動を起こすことができます。それにより就職に対する必要な力が身につくのです。つまり自分の将来について、しっかりしたビジョンを持ち、実りある大学生活を送っている人ほど良い結果が得られる可能性は高くなるでしょう。

キャリアセンターの就職活動相談



黎明祭



今年度の黎明祭は4月16日(土)に行われました。内容はお笑い芸人ステージショー、音楽系サークルによる演奏ステージ、部活動の紹介ブース、無料とん汁サービスなど盛り沢山でした。

まず、吉本興業の佐久間一行とトータルテンボスの方たちに、お笑いショーをしてもらいました。場所は第一食堂前の特設ステージ。2組とも会場を笑いの渦に巻き込み、黎明祭を盛り上げてくれました。

次に、新潟大学に所属する、音楽やダンスを愛する団体が約30分ずつライブをしました。快晴の下に催された、特設ステージライブに多数の新生が入っていました。

無料とん汁サービスは1000食用意していたのですが、すぐに無くなり、大好評でした。皆さんは食べる事が出来ましたか?

僕たち役員は、2ヶ月以上前から準備を始めました。僕は実行委員長になったのですが、部の合宿があり、2週間準備から抜けていました。この時、関係者の皆さんにどれだけ迷惑をかけたか分かりません。合宿後、すぐに僕は役員のみさんと合流し、現状を把握しました。1年生の役員が僕の予想以上に頑張ってくれており、準備がかなり進んでいました。黎明祭に向けて、みんなが一つになって頑張ることに僕は感動を覚えました。そして前日までに万全の準備をし、当日を迎えました。

黎明祭の企画が終わり、片付けも終わり、関係者に挨拶が終わると僕は大きな達成感を得ることが出来ました。また同時に、一つの事を実現するには、みんなとコミュニケーションを取ることが非常に大事だということが分かりました。一人では出来ないことでも、チームワークにより成し遂げることが出来るのです。

最後に、共に頑張った役員の方皆さん、どんな時でも優しくアドバイスをしてくれた学生生活支援課の方皆さん、黎明祭に参加してくれた各団体の皆さん、そして黎明祭を楽しんでくれた新入生の皆さんに感謝の気持ちを表したいと思います。皆さん、本当にありがとう!

黎明祭実行委員長
人文学部3年 原田 由政

第46回

新大祭

こんにちは。新大祭常任委員会です。

今年も10月29日(土)～30日(日)に第46回新大祭が行われることとなりました。今年のテーマは「彩」ということで、いろどりが鮮やかに新大祭を盛り上げることができたらと思っています。現時点で催される企画としては、講師を招いての講演会、言わずと知れたプリンセスコンテスト、アーティストによるコンサート、おもしろいことならなんでもやっちゃおう笑い企画などが挙げられます。また、各サークルによる発表や模擬店も健在ですし、他にも楽しいことがたくさんあります。常任委員会としても例年を上回るものにしようとする気になっていますので、ご理解の程お願いします。



2004年新大祭の一場面

最後に、新大祭はみなさん一人ひとりによって成り立っています。常任委員会はそんなみなさんのお手伝いを精一杯やっていますので、是非新大祭に参加してみてください。1年に1度の新大祭を楽しみましょう。

2004年新大祭
ステージでの風景

新大祭常任委員会委員長
経済学部3年 石田 貴帆



今回、インターンシップを特集として取り上げました。教員、学生、受け入れ企業の方々からの多数のご意見を頂きまして誠にありがとうございました。誌面の関係で一部の記事だけとなりましたこととお詫び申し上げます。新大広報らしい記事になったでしょうか。ご意見を学生生活支援課の方へお願いいたします。

●編集委員長 寺田 真人

「表紙を見て、思わず手に取りたくなる」ものを作ろうと努力しました。まずロゴを一新して、紙面の大幅なリニューアルも試みました。意図を読み取っていただければ幸いです。「広報予算の削減」というニュースはあまりに衝撃的でしたが、限られた予算とマンパワーのなか、自助努力でなんとかセンスの光る広報誌をこれからも編集していただいたいと切に願います。

●編集委員 川瀬知之

今回の記事はいかがでしたでしょうか。私としては、インターンシップに興味を持ってくださる方が増えれば幸いです。

なお、記事作成にあたりましては、栗原先生に非常にお世話になりました。今年度のインターンシップの実施準備で忙しい中、先生にさらに多くの仕事を押し付けてしまいましたことを、おわびいたします。

●編集委員 岡田昌浩

初々しかった学生もそれぞれの顔を持つようになって頼もしく感じられるようになりました。

自分の教え子達も自信を持った顔つきに変わってくることを感じています。こうして育った学生を皆さんにも見てもらえて嬉しい限りです。

●編集委員 高山誠

広報委員会第1部会

部会長・編集委員長

寺田真人(医歯学総合病院)
TEL 227-2975 tera@dent.

委員

石坂妙子(教育人間科学部)
TEL 262-7166 ishizaka@ed.

岡田昌浩(法学部)
TEL 262-6545 okada@jura.

高山 誠(経済学部)
TEL 262-6557 takayama@econ.

竹内照雄(理学部)
TEL 262-6346 takeuchi@math.sc.

牛木辰男(医学部医学科)
TEL 227-2058 t-ushiki@med.

川瀬知之(歯学部)
TEL 227-2927 kawase@dent.

谷口正之(工学部)
TEL 262-6716 mtanig@eng.

田山英治(大学院自然科学研究科)
TEL 262-7741 tayama@gs.

横山峯介(脳研究所)
TEL 227-2163 myoko@bri.

岩本義男(学務部長)
TEL 262-6080 iwamotoy@adm.

事務局(学務部)

TEL 262-7337 FAX 262-7516
kikara@adm.

E-mailのアドレスは、
niigata-u.ac.jpの表記を省略しています。
市外局番は025です。